渋川保健医療圏 救急要請時連絡シートの活用について

救急要請時連絡シートは、施設からの救急搬送時に、施設職員、救急隊、救急病院との連携を円滑にし、施設入所者を適切に救急医療へつなげることを目的として、令和４年より運用されています。おかげさまで、救急要請時連絡シートを活用している施設も年々増加しています。運用開始から、もうすぐ５ 年。この機会に、救急要請時連絡シート作成の背景や必要性について、今一度ご確認のうえ、さらなる活用をお願いいたします。

なぜ救急要請時連絡シートが必要なのでしょうか？

人生 100 年時代を迎え高齢者の増加とともに、その受け入れ施設も増加し、それに伴い、施設内で体調を崩される方も多くみられるようになってきました。状況によっては救急要請による病院受診が必要となります。

いざ受診となりますと、日勤中でもそうですが、特に準夜帯や夜間などの場合、**「勤務している職員が、対象者の状況を正確に把握しているとは限らない」**状況が往々にして生じます。このような場合、従前は**「電話や口頭での対応」**が主でしたが、昨今の医療安全の立場からみますと、**「きちんとした形で残す」**ことが、施設・病院双方にとって必要不可欠と考えられます。

このような時代背景の中、救急要請時連絡シートは、確実で速やかな情報伝達のために作成されました。このシートは、**「書式が統一されていること」** で、救急対応時の慌ただしい中でも治療に必要な情報を得やすくなり、確実で速やかな治療へつなげることができます。そのため、救急要請時連絡シートは、**「救急時に病院が最も必要とする情報を,優先して記載できる」**ように構成いたしました。利用者だけでなく、介護者と医療者の安心安全のためにも、是非ご活用ください。

高齢者の場合、体調が常に変化します。平素から様式1の作成・見直しや、緊急時のシミュレーションなど、準備しておくことをおすすめします。

渋川広域消防本部・渋川圏域二次救急対応病院・渋川地区医師会（渋川地区在宅医療介護連携支援センター）は、「救急要請時連絡シート」の活用を推奨しています。

救急要請時連絡シートのご活用を、よろしくお願いいたします